



◇「総会を終えて」 本部長 竹内 政司

先日、皆様方のおかげで、無事総会を終了することができました。

また、懇親会も和やかに、楽しく行えましたこと、有り難く、厚く御礼申し上げます。

新しい年度に入りましたが、一つひとつの事業を、皆様と盛り上げ、素晴らしい仲間の輪を広げていければと思います。

今年1年間、またお世話になります、宜しくお願ひ申し上げます。

平成19年度事業計画 (活動方針文面一部抜粋)

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

**1 活動方針** 日本経済は数字を見る限り好調であるが、業界を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況にある。軽油価格は高止まり、運輸安全マネジメントが導入され、さらに新しい局面として、輸送需要に対して、一部では車両不足が表面化し始め、中型免許制度の新設による運転手不足も今後の大きな課題となっている。我々は、常に発生する諸問題への対応に、日々追われているのが現状である。

このような経営環境の中ではあるが、我々は昨年に引き続き「安全と安心の共創」を年間統一テーマに掲げ、東ト協が推進する諸施策、特に、再生産可能な適正運賃の収受と、安全輸送への取り組みを最重要課題として活動を推進する。また、常にトラック輸送は我が国のライフラインを担う重要な産業としての責任を担っていることを自覚し、コンプライアンス(法令順守)を確立し、良質な輸送サービスを提供するという社会的使命を果たし、社会との共生を図っていかなければならないと考える。そのために、国土交通省が昨年10月1日に施行した運輸安全マネジメントを確実に実行し、経営トップ自らが意識改革を図り、安全に関する責任を全うし、事故の撲滅に努める活動に取り組むことが必要である。具体策として、事故防止に大きな効果が期待できるドライブレコーダー装着の啓蒙、トラック運送事業者の安全性を正当に評価し公表する「貨物自動車運送事業安全性評価事業」(Gマーク)取得の充実を目指し、さらに「グリーン・エコプロジェクト」との連携を図り、環境への配慮と安全活動は不可分一体のものであるとの観点から経営を見直すことが重要である。

我々は、企業も業界も社会の中に存在していることを再認識し、これらの活動の一つひとつ実行し、今まで以上に国民に信頼を寄せてもらえる事業活動に取組まなければならない。安全な輸送を通じて社会へ安心を提供することは、我々自身の職業観、倫理観、責任感、あるいは公共心を正しく認識することによって作られる。本年度も多くの部員に参画していただき、一層の結束を固め、共に研鑽を積み、この厳しい経営環境を克服すべく活動に取り組むものとする。

**2 年間統一テーマ 「安全と安心の共創」**

**3 事業計画 (1) 政策提言活動の実施** ロジスティクス研究会では、平成6年以来10回にわたり政策提言を行っていたが、本年度は昨年度に引き続き研修等での内容を研究し、その成果を発表することとする。

**(2) 研修会の体系的・計画的実施** 年間統一テーマにかかる内容で効果的な研修会を実施する。

**(3) フォーラムⅡの開催** 年間統一テーマに即した企画で実施する。

**(4) 納涼会の実施** 会員間の親睦を図るとともに、関東運輸局・東京運輸支局長表彰受賞会員を祝賀する納涼会を実施する。

**(5) 温故創新セミナーの実施** 歴史上の人物の足跡を現地で学ぶ「温故創新セミナー」は、昨年で12回を数えた。本年度は、11月21日夜から25日に海外研修とあわせ、タイのアユタヤに山田長政の足跡を訪ねるセミナーを企画・実施する。

**(6) 人材養成事業への協力** ロジスティクス研究会が青年部〇Bによる自主的研修集団として発足した経緯に鑑み、今後とも人材養成等財団の研修事業に協力していく。特に次世代経営者を養成する「物流経営士課程」については、旧壮年部員が参加した特別物流経営士課程がその嚆矢となっていることから、講師・指導員として協力していく。また、運輸事業助成交付金による支部研修活動についても、三組織による合同研修会の企画等についてリーダー的役割を果たすよう務めていく。

**(7) 広報活動の充実**  
機関紙「ひびき」は、会員の貴重な情報源であることから、テーマを決めての紙上討論など紙面作りに工夫を凝らしていく。また、ロジスティクス研究会ホームページについては、記録性を重点に運営していく。

**(8) 忘年会の実施** 会員間の親睦を図り、新年に向けた鋭気を養うため忘年会を実施する。

**(9) 親睦ゴルフコンペの実施** 健康増進とコミュニケーションを図るため、親睦ゴルフコンペを企画する。

**(10) 三組織の連携** 三組織合同セミナー・交流会等の実施①青年部、女性部との三組織は、世代、性別を超えた物流事業経営者としての連携を強めるため、合同の事業を企画・実施している。本年度は、例年2月に開催している三組織の合同セミナー・新年会を青年部が担当する年であり、積極的に協力することとする。②三組織連絡会の運営 三組織の連携をより密にし、各組織の事業の円滑化を図るとともに東ト協の政策の浸透を図るため、定期的に開催する。

《百文字ひろば》

「国際化的一幕」

千代田支部壮年部長 大淵 隆次〔(株)協和運輸〕

先日、巢鴨のマクドナルドでアメリカ人の店員が来店した英国人の貴婦人と流暢な日本語でやりとりをしていた。

何気なく見ていたが、従来は見ることのなかった光景で、国際化という言葉を身近に感じる一幕であった。

《お知らせ》

今回の「ひびき」では、6月14日に開催した平成19年度第20回通常総会において承認された、平成19年度事業計画を掲載いたしました。

《今後の予定》

「納涼会」 8月2日 於：主婦会館プラザエフ

「温故創新」 11月21日～25日 於：タイ アユタヤ他

「命を尊ぶ心」を勉強【日本流通新聞6月25日掲載記事】  
東ト協ロジ研の竹内本部長は総会后に、8・9月をめぐりにセミドキュメンタリー映画「0 (ゼロ) からの風」の東京都トラック総合会館での上映を検討していると語った。  
ストーリーは7年前の春、一人息子を交通事故で亡くした母親をモデルに、署名活動を展開し危険運転致死傷罪の成立を成し遂げる。加害者は無車検、無保険、免許失効中のうえ飲酒運転で3度目の事故にもかかわらず、当時は業務上過失致死傷罪で処分された。女性は、息子が通っていた早稲田大学に入学を果たし、息子の代わりに人生を歩みだし今年の3月に卒業した。  
ロジ研は「安全と安心の共創」のテーマを、昨年に引き続き取り組み、活動の一環として上映を目指す。竹内本部長は「事故防止の真の姿は「命を尊ぶ心」だ」と示し、「事故はつきものとするのは論外」とし、「上映で事故防止に取り組む原点を学びたい」と重いテーマに先頭に立ち進む決意を表明した。